

現代アートを扱った授業実践の検討と授業を参観しての協議

図工のキラリを見つける会

活動の目的

解釈の難しさからこれまで小学校であまり実践されなかった、現代アートと呼ばれるジャンルを扱った表現・鑑賞活動を提案・検討し、授業実践をおこなう。また多くの小学校に、子供がアーティスト（今回は現代アート作家）と共に学習する効果や、表現・鑑賞活動を一体化させていく意味や価値を広げ伝えていくことができるように、附属小学校授業公開・協議会や実践報告会にて発信をおこなっていく。

活動の内容及び経過

佐藤亮太氏は、画像や映像を用いたコンセプチュアルアートを世界に発信されている現代アート作家である。今回佐藤氏の協力を得て、第5学年の児童を対象に、作品制作時の着眼点の面白さや物事の幅広い捉え方、扱う材料の工夫などについて、児童に多くの気づきが生まれることを期待して授業実践をおこなった。子供達が家庭や地域にある「自然」を自分で考えてカメラで撮影してきたものを授業の導入で鑑賞した。その後「路地裏に生えている目立たない木も自然ではないか。逆に、植林されて規則正しく木が生えている山のほうが人の手が加わったもので、本当の自然とは言えないのではないか？」と佐藤氏が問いかけたことにより、子供達は日頃イメージしていた「自然」という概念を揺さぶられた。大切なのはこうして自分なりに「自然」について改めて考えることにある。佐藤氏は自らの作品で「自然とは？」と見る側に考えさせている。子供達がひとしきり「自然」について話し合い、考えを深める活動をおこなった後、佐藤氏の「自然」について考えさせるテーマの作品を全員で鑑賞していく授業展開にした。

加えて本実践では、佐藤氏の作品だけに終わらず、他の多様な世界の現代アート作品を紹介することで、子供達がより現代アートに興味・関心を持ち、これからも見ることを楽しんでほしいという願いをこめた展開にした。そして、自分のこれからつくっていく作品に対しても、意図をもちつくることの大切さを意識し、自分の思いに合った様々な表現方法の可能性をどんどん探ってもらいたいという期待も含ませた授業にした。

活動の成果・効果

授業の最後には、佐藤氏から作品づくりで大事にしていることをメッセージとして伝えてもらうことで、子供は今後の造形活動の励みとして受け止めることができた。このように本物の芸術家との出会いを通し、子供は現代アートの着眼点の奇抜さや面白さ、多様な表現方法を感じ取り充実した時間を過ごすことができた。子供がこれから地域に



あるアートや、身近な造形物に対しても興味をもって見ていくことのきっかけづくりにもなった授業であったと感じている。現代アートは芸術の中でも捉え方が難しく、わからないとよく耳にするが、子供達が柔軟な考え方で、様々なイメージをふくらませていることに驚いた。子供達のワークシートや発表から、作品自体の美しさやよさだけでなく、作家が大事にしているアイデアやメッセージ性といった、目に見えないものに意味や価値を感じたことも伝わってきた。

今後の課題と問題点

授業後の協議会でも概ね本実践への理解を得られ、現代アートに対しての子供の気づきの高まりが評価いただけた。また、授業構成として様々な流れが考えられることも話題に挙がった。

最後まで「自然」にこだわり、再度子供に捉えなおした「自然」の視点で身の回りの自然を撮影できる場を設けたり、佐藤氏の作品を参考に自分なりに自然について問いかける作品（ポスターなどが考えられる）を製作してみたりするとよい、という案があった。

- 代表者：高橋英理子 ●所在地：岡山市中区東山
- TEL：086-272-0511
- E-MAIL：takah-e1@fuzoku.okayama-u.ac.jp
- 設立年：2012年 ●メンバー数：10～20名